

## 令和元年度 第1学期終業式辞

令和元年7月19日（金）

69日もあった1学期が今日で終わります。始業式で皆さんに伝えた「3つのC」(Chance, Challenge, Change)を大切にしましたか。大野中生の強み(よさ)はたくさんあります。それを土台にして、難しいことや新しい世界にぜひChallengeしてください。また、「井の中の蛙」とならないために、本を読んだり、いろいろな人とCollaborationを図る(協働する)ことが大切です。これから大野中をもっとワクワクするような学校、居心地がいい学校にするために、「Chance, Challenge, Collaboration, そしてChange」と「C」で始まる4つの単語を意識してみましょう。

今年の特設駅伝部には、男子15名、女子4名が入部しました。タフな駅伝競技に自らの意志でChallengeする19名の皆さんには改めて敬意を表します。残念ながら女子は人数が足りないため、大会には出場できません。ただし、4名の女子の皆さんは男子と一緒に練習はできますので、ぜひ心身を鍛えてください。今後の生徒数の減少を考えると、特設駅伝部の大会への参加も難しくなるかもしれません。男子の皆さんは、「これが最後の大会になるかもしれない。」という気持ちで、悔いの残らないよう練習し、大会に臨んでください。

明日から始まる夏休み中に、第二次世界大戦が終結したことを記念する日、また、第二次世界大戦での戦没者を追悼し平和を祈念する日である8月15日を迎えることから、平和に関する話をします。

8月5日から10日まで、本校の生徒会長が、いわき生徒会長サミット事業の一つである長崎派遣事業に参加します。この長崎派遣事業は、いわき市の子どもたちが、核兵器の廃絶と平和を希求する気持ちを高めるとともに、ふるさとの復興を担う人材となるための意欲と実践力を身に付け、学んだことを広く発信するために行われます。長崎市は今年の8月9日、原子爆弾が投下されてから74年目を迎えます。昨年、長崎市の原爆犠牲者慰霊平和祈念式典で、田上富久長崎市長は、次のような平和宣言を述べました。

「73年前の今日、8月9日午前11時2分。真夏の空にさく裂した一発の原子爆弾により、長崎の街は無残な姿に変わり果てました。人も動物も草も木も、生きとし生けるものすべてが焼き尽くされ、廃墟と化した街にはおびただしい数の死体が散乱し、川には水を求めて力尽きたたくさんの死体が浮き沈みしながら河口にまで達しました。15万人が死傷し、なんとか生き延びた人々も心と体に深い傷を負い、今も放射線の後障害に苦しみ続けています。原爆は、人間が人間らしく生きる尊厳を容赦なく奪い去る残酷な兵器なのです。」

1946年に公布された日本国憲法は、平和主義を揺るぎない柱の一つに据えました。広島・長崎が体験した原爆の惨禍とそれをもたらした戦争を、二度と繰り返さないという強い決意を示し、その実現を未来に託したのです。そして、いわき市においても、昭和61年3月に「非核平和都市宣言」を制定し、核兵器の廃絶と恒久平和の実現を今日ま

で目指してきました。

しかし、第二次世界大戦終結から73年がたった今も、世界には14,450発の核弾頭が存在しています。また、核兵器を使って軍事力を強化しようとする動きが強まっているのも事実です。このような時代に、平和な世界の実現に向けて、私たち一人一人ができることはたくさんあります。本校の生徒会長のように被爆地を訪れ、核兵器の怖さと歴史を知ることはその一つです。また、自分のまちの戦争体験を聴くことも大切です。なぜならば、体験は共有できなくても、平和への思いは共有できるからです。さらには、文化や風習の異なる外国の人たちと交流することで、相互理解を深めることも平和につながります。自分の好きな音楽やスポーツを通して、平和への思いを表現することも可能です。「戦争の文化」ではなく「平和の文化」を、私たち市民の力で世界中に広げいきましょう。

東日本大震災による原発事故から8年が経過しました。しかし、今も放射能の影響は福島県民を苦しめ続けています。震災と原発事故の被災地に住む私たちだからこそ、核兵器の廃絶と平和を希求する気持ちを誰よりも確かに持ちたいものです。

いよいよ明日から37日間の夏休みが始まります。特に3年生にとっては、中学校生活最後の夏休みとなり、一日一日がかけがえのない時間となります。受験生である3年生も、1・2年生も、「夏休みにもっと努力すればよかった。」と後悔しないように、自分をマネジメントしてください。さらには、頭だけでなく、心と体にエネルギーを蓄え、実りの2学期に備えましょう。

むすびに、2学期を全校生が揃って迎えられることを祈り、式辞とします。